

# 福岡県水産業の動向

— 平成22年度 水産白書 —

福岡県

## 目 次

特集 覆砂により有明海の環境改善が進む	1
---------------------	---

### 第1章 福岡県水産業の動き

1 福岡県水産業の概要	3
2 福岡県水産業の主要指標	5
3 福岡県水産業の全国的位置	6
4 福岡県内の漁場	7

### 第2章 施策の展開方向

1 安全・安心な水産物の安定的供給	8
2 持続的利用を可能にする資源づくり	11
3 経営感覚のある人づくりと組織の強化	19
4 都市と共生する漁村づくり	23

### 第3章 各海区の動向

1 筑前海区	26
2 有明海区	29
3 豊前海区	31
4 内水面	33

### 付属統計・資料

## 覆砂により有明海の環境改善が進む

有明海は、ノリ養殖業を中心に多様な漁業が営まれてきましたが、平成12年度に、植物プランクトンが長期にわたり大量発生しました。

このプランクトンが、ノリに必要な栄養を消費しノリの色落ちが進行した結果、生産枚数は5.8億枚で前年に比べ6.9億枚減少し、甚大な被害となりました。



た。

さらに、タイラギなどの魚介類の不漁が続いており大きな問題となりました。

県では、直ちに、不漁不作の原因を調査し、環境改善を図るため覆砂\*を実施し、14年からは、「有明海及び八代海を再生するための特別措置に関する法律」に基づき、有明海再生対策に積極的に取り組んでいます。

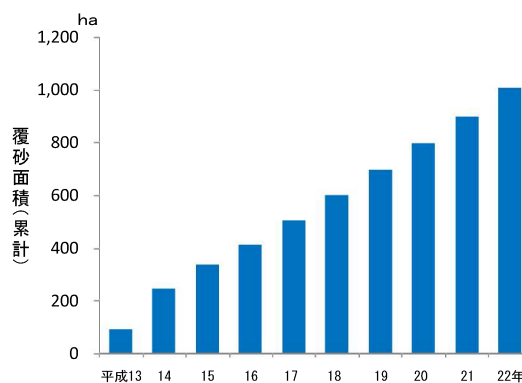


### 覆砂により貝類の漁場を回復

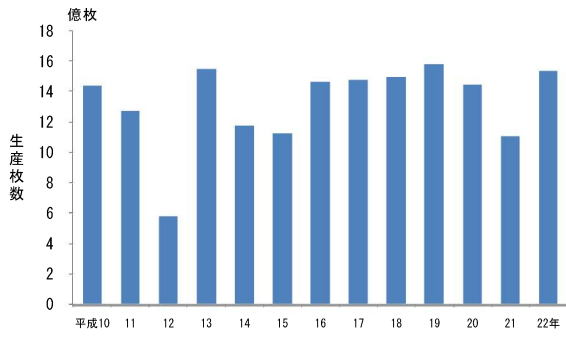
県では、13年度から重点的に覆砂を実施しており、22年度は113haで、これまでに約1,000haを実施しました。

覆砂を行った漁場ではアサリなど貝類が増殖しており、13年に1,300tまで落ち込んだ漁獲量は、3,000~6,900tに増加しています。

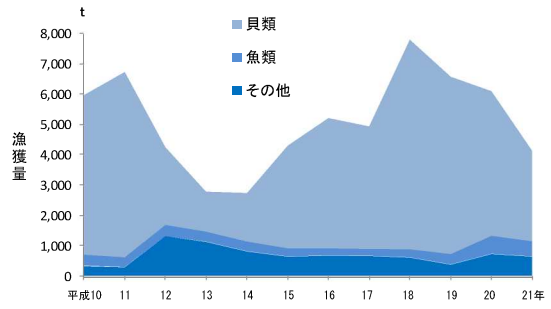
また、ノリ養殖は、11~15億枚で推移しており、不作前の水準に回復しています。



覆砂面積（累計）の推移



養殖ノリの生産枚数の推移

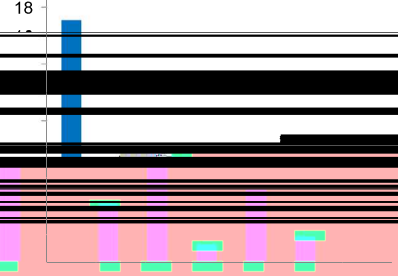


漁獲量の推移 (ノリなど養殖を除く)

### ○覆砂により底質が改善

県では、覆砂実施後の水質や底質を継続的に調査し、その効果を検証しています。

mg/g乾泥  
20  
18  
覆砂前 覆砂後→

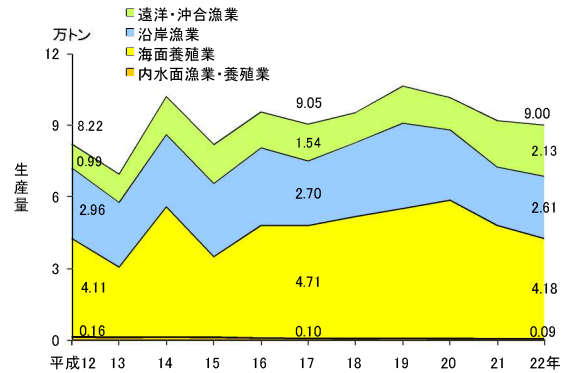


# 第1章 福岡県水産業の動き

## 1 福岡県水産業の概要

### (1) 漁業生産量

- ・生産量は9万tで、前年並みでした。
- ・主な魚種の生産量は、サバ類が10,719tで前年に比べ1,724t減少、マアジが6,105tで前年に比べ488t増加、ブリ類が4,736tで前年に比べ1,594t増加しました。サバ類とマアジの資源動向は横ばいで、ブリは増加しています。



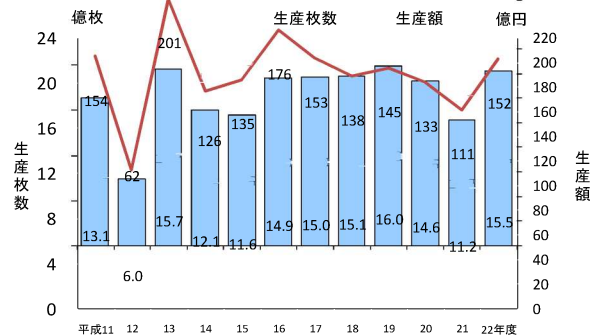
部門別生産量の推移 (暦年)

(資料：福岡農林水産統計年報、平成22年海面漁業・養殖業生産統計(概数)、漁業管理課)

### ノリ養殖生産

- ・ノリは、生産枚数が15億5千万枚で、前年に比べ4億3千万枚増加しました。生産額は152億1千万円で前年に比べ41億円増加し、過去5年で最高でした。

これは、主産地である有明海において、秋季の高水温により採苗が遅れ、漁期終盤には栄養塩が低下したものの、漁業者が適切な養殖管理を行ったためです。

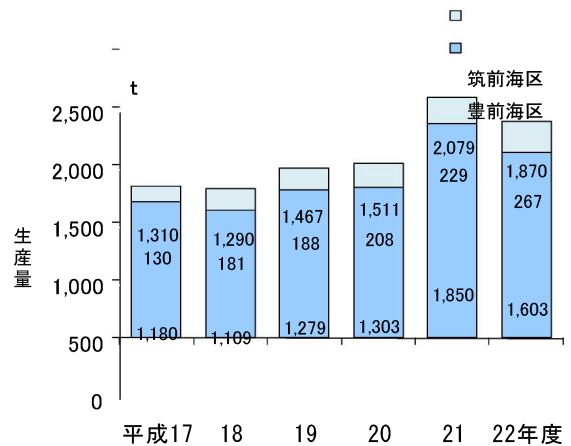


ノリ養殖生産の推移 (養殖年)

(資料：福岡農林水産統計年報、漁業管理課)

### カキ養殖生産

- ・カキは、1,870tで前年に比べ209t減少したものの、平年に比べ好調でした。これは、豊前海で秋季の水温が速やかに低下しへい死が少なかったことと、筑前海でイカダ数が増加したためです。

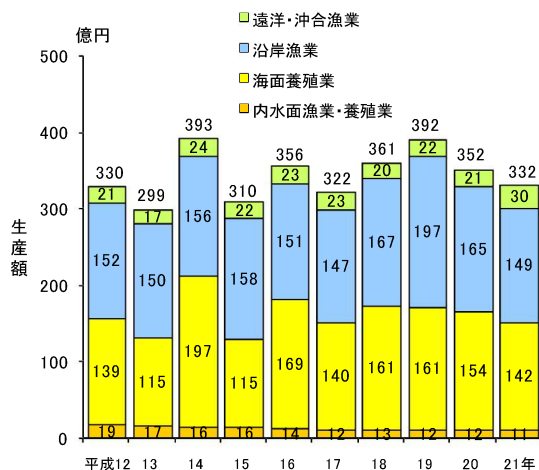


カキ養殖生産の推移 (養殖年)

(資料：福岡農林水産統計年報、漁業管理課)

## (2) 漁業生産額

- ・21年の生産額は332億円で、前年に比べ20億円減少しました。
- ・これは、ノリ養殖やアサリの生産量の減少によるものです。

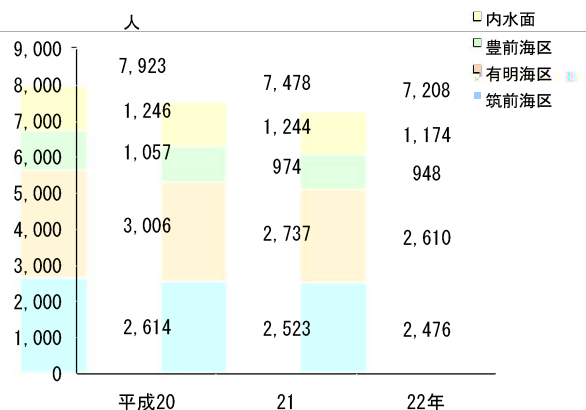


部門別生産額の推移

(資料：福岡農林水産統計年報、漁業管理課)

## (3) 漁業協同組合員

- ・漁業協同組合員（内水面を含む）は7,208人で前年並みでした。
- ・海区別にみると、筑前海区が2,476（35%）、有明海区が2,610（36%）、豊前海区が948（13%）、内水面が1,174（16%）でした。

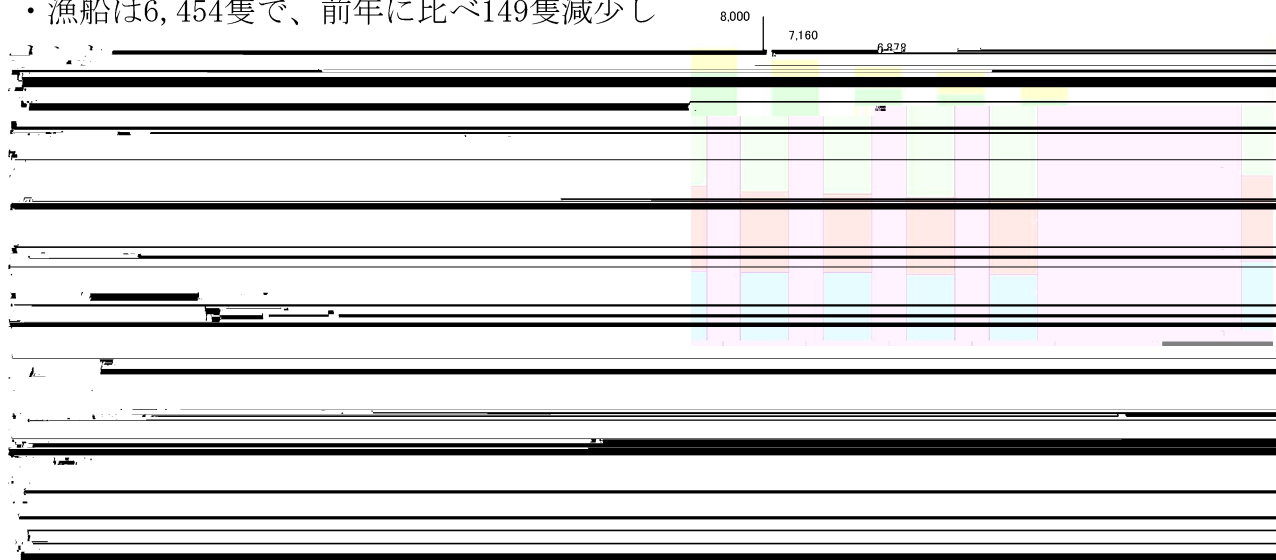


漁協組合員の推移

(資料：漁業管理課)

## (4) 漁船

- ・漁船は6,454隻で、前年に比べ149隻減少し



## 2 福岡県水産業の主要指標

項目	単位	県合計	海面漁業				内水面	全国 ランク	備考	
			計	遠洋・沖合漁業 (筑前海)	沿岸漁業					
					筑前海	有明海	豊前海			
経営体数	体	3,253	3,173	1,604 <sup>*1</sup>	1,122	447	80	12	●20年値 2008年漁業センサス *1筑前海には遠洋・沖合漁業を含む	
就業者数	人	—	6,174	2,639 <sup>*2</sup>	2,761	774	—	13	●20年値 2008年漁業センサス	
男性	人	—	4,751	2,407	1,840	504	—	14	*2筑前海には遠洋・沖合漁業を含む	
女性	人	—	1,423	232	921	270	—	9		
水域面積	km <sup>2</sup>	—	—	—	約7,000	171	930	河川延長 2,205km	—	●水域面積 筑前海： 隣接県との主要な陸地間、 島間の中間線を結ぶ線に囲ま れた本県漁船が操業する水域 の面積 有明海・豊前海： 共同漁業権漁場の面積
海岸線の長さ	km	—	—	—	420	47	109	人工湖 31カ所	—	
最大水深	m	—	—	—	120	15	15	溜池 5,325カ所	—	●内水面 県土整備部河川課資料、農 林水産部農村整備課資料
共同漁業権免許件数	件	50	37	—	31	3	3	13	—	●23年3月31日現在 漁業管理課・水産振興課資料
区画漁業権免許件数	件	222	164	—	49	83	32	58	—	
漁船数	隻	6,454	6,240	2,710 <sup>*3</sup>	2,690	840	214	—	—	●22年12月31日現在 漁業管理課資料 *3筑前海には遠洋・沖合漁業を 含む
漁協数	漁協	45	36	—	8	20	8	9	—	●22年値 漁業管理課資料
漁協組合員数	人	7,208	6,034	—	2,476	2,610	948	1,174	—	
漁業総生産量	t	90,084	89,185	21,295	67,890			899	—	●22年値 平成22年海面漁業・養殖業 生産統計（概数） 漁業管理課資料 水産振興課資料
漁船漁業生産量	t	47,945	47,381	21,295	26,086			564	—	
養殖業生産量	t	42,139	41,804	—	41,804			335	—	
漁業総生産額	百万円	33,259	32,117	3,029	29,088			1,142	15	●21年値 第57次農林水産統計年報 漁業管理課資料 水産振興課資料
漁船漁業生産額	百万円	18,734	17,941	3,029	14,912			793	19	
養殖業生産額	百万円	14,525	14,176	—	14,176			349	11	
					341	13,375	460			
単位面積当たり生産額	万円/km <sup>2</sup>	—	—	—	約170	約8,590	約240	—	—	

※全国ランクは海面漁業の数値で比較

### 3 福岡県水産業の全国的位置

項目	単位	全国シェア 全国計	主産県				
			1	2	3	4	5
マダイ	t	11.5% 15,725	福岡 1,807	長崎 1,741	愛媛 1,513	兵庫 1,079	山口 977
フグ類	t	10.7% 4,184	福岡 448	山口 379	愛媛 304	長崎 285	愛知 275
サワラ類	t	6.4% 13,925	福井 1,810	京都 1,687	石川 1,590	長崎 1,112	福岡 893
スズキ類	t	4.5% 8,950	千葉 2,146	神奈川 724	愛知 636	兵庫 621	福岡 400
ガザミ類	t	14.3% 2,319	福岡 332	山口 288	大分 268	長崎 233	愛知 196
クルマエビ	t	9.4% 584	愛媛 143	大分 119	愛知 76	福岡 55	山口 40
ノリ養殖	生産枚数 (百万枚)	18.1% 8,557	佐賀 2,256	福岡 1,546	兵庫 1,135	熊本 1,126	香川 446
	生産額 (億円)	19.3% 786	佐賀 235	福岡 152	熊本 104	兵庫 91	愛知 36
コイ養殖	t	7.9% 2,910	福島 1,028	群馬 429	宮崎 316	長野 230	福岡 229

資料：ポケット水産統計—平成22年度版—、農林水産統計年報、漁業管理課

※ノリは22年（養殖年（22年10月～23年4月）を、その他の数値は21年を表示。



#### 4 福岡県内の漁場

福岡県には、筑前海、有明海、豊前海の3つの海と内水面があります。

**筑前海**は、対馬海峡東水道の玄界灘、響灘に位置し、対馬暖流の影響を受ける外海性の海域で、水深は120mより浅く、なだらかな海底地形です。

また、海底には、天然礁が多く分布しており、沿岸域の岩礁地帯には藻場が形成されています。

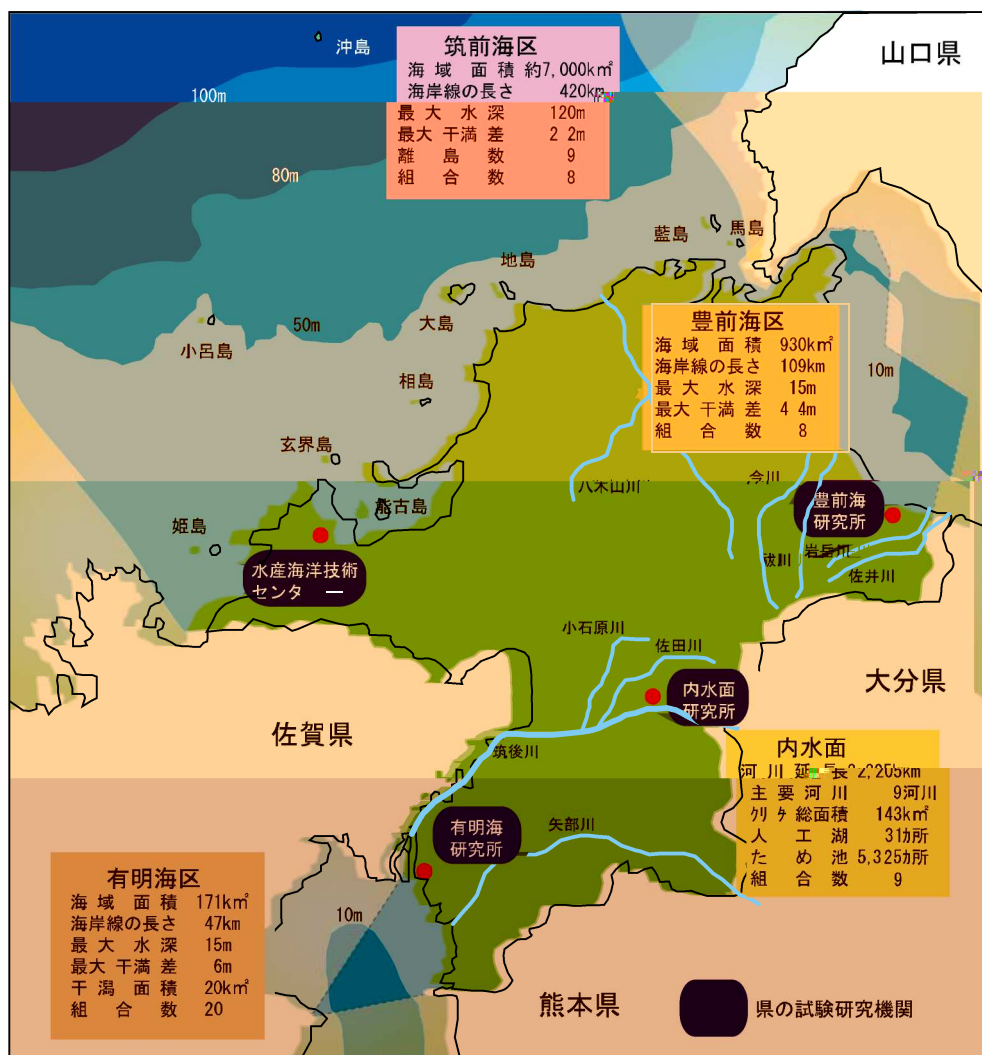
**有明海**は、筑後川をはじめ多くの河川が流れ込む内湾性の海域です。

水深は15mより浅く、海底は泥または砂泥で、干潮と満潮の高さの差（干満差）が最大6mに達し、干潮時には約20km<sup>2</sup>の広大な干潟が出現します。

**豊前海**は、瀬戸内海最西部の周防灘に位置する内海性の海域です。

水深は15mより浅く、海底は泥または砂泥で、干満差は最大4mに達し、沿岸域には干潟も出現します。

**内水面**は、河川、ため池及び養殖池等淡水域を指します。九州で最も長い筑後川（長さ143km）や矢部川（長さ61km）など大きな河川があります。



福岡県内の漁場（数値は23年3月31日現在）